

利用成果報告書

令和 4 年 3 月 5 日

防災研究所長 殿

[利用代表者]

氏 名 野村 洋文

(59才)

職 名

所属機関名 エヌパット株式会社

所在地 大阪市港区海岸通 4 丁目 4 番 1 0 号

電 話 06-6576-5101

F A X 06-6576-5103

E-mail アドレス nomura@n-pat.com

利用目的	<p>前回に引き続き引き続き機器重量、枠寸法、吊り高さを変更して、空調機器等の懸垂設備機器をフレーム固定した枠の耐震性についての検証を行った。</p> <p>また吊り高さの大きい従来では重量鉄骨架台で組むべきようなところで、吊りボルトと斜材で 2 段ブレスを組んだ行った場合の強度検証を行った。</p>
利用形態 (該当する項目を■にし てください)	<input type="checkbox"/> トライアルユース <input checked="" type="checkbox"/> 成果公開利用 <input type="checkbox"/> 成果非公開利用
利用期間	令和 2 年 2 月 1 2 日～ 2 1 日 令和 2 年 1 0 月 2 6 日～ 3 0 日
試験体仕様 (大きさ・重量)	架台は 200×200 の H 形鋼を主部材とした鋼製フレームであり (外法 3800×3000×高さ 3000mm) 機器を支持するフレームは約 2m のアングル材で矩形を構成する。 また吊りボルトは W3/8、W1/2 の寸切りボルトで、平面寸法 1m×1m (重量最大 100kg)、高さ最大 2500mm で X 状ブレス 2 段で振れ止めを行い、その耐震性を検証する。
加振内容	告示八戸 250% K-NET 仙台波、芳賀波 (東北地方太平洋沖地震) の 3 軸加振

次項に続く

<p>実験結果の概要と 実験により得られ た成果</p>	<p>鋼製フレームに変えたことにより(前回は軽量形鋼による構成)、100kg以上の重量機器においても構成方法を考えればフレームの損傷が見られないことを確認した。</p> <p>また、吊り高さが2500mmの吊りボルトと斜材による振れ止めは、W3/8で50kg、W1/2で100kgの機器に対して耐震性があることが確認出来た。また中段部をセパレートと一体式で行った場合の差も確認でき、一体式の有効性も確認できた。</p> 
<p>社会、経済への波及効果の見通し</p>	<p>50kg以下の空調機器をスラブから吊るために、機器重量よりも重たい耐震架台を使用しなければならないところが、耐震架台に比べて重量で1/10程度になる吊りボルトと斜材で接続する金具で取り付けることにより、耐震性を確保した上でトータル重量も少なくなり、また吊り込みを行う作業者の手間を減らすことが出来る。大規模現場であるほどその効果は大きい。</p>
<p>発生した発明・著作物など (特許名称・出願番号・出願人,雑誌掲載資料)</p>	<p>なし</p>
<p>その他</p>	

- 1) 実験終了後、速やかに(原則1ヶ月以内に)提出下さい。
提出先:京大防災研究所 社会防災研究部門・都市空間安全制御分野
(E-mail:ito@zeisei.dpri.kyoto-u.ac.jp)
- 2) 文部科学省への評価報告が求められています。
知的財産権等の成果の追跡調査にもご協力宜しくお願い致します。